

地域経済産業活性化対策調査（産業資源活用型地域活性化調査等事業（近代化産業遺産の活用方策に関する調査研究及び成果普及事業））事業報告書

経済産業省では、我が国産業の近代化の過程を物語る歴史的建造物、機械類等について、当該事物の歴史的文化的価値を顕在化・再認識させるとともに、当該事物を地域活性化の「種」とすることを目的として、平成19年及び20年に1,115件の近代化産業遺産を大臣認定した。

本調査事業は、認定された近代化産業遺産を「種」として各地域が活性化を図るための具体的方策について調査研究を実施し、特に地域における新たな集客をとおした地域活性化に大きく貢献すると期待される観光分野での活用にスポットをあて「近代化産業遺産観光活用ガイド」を作成して、その成果普及をすることで、地域の活性化に資することを目的で実施した。

その調査事業の実施内容について報告する。

1. 近代化産業遺産の実態と課題についてのアンケート調査の実施

近代化産業遺産1,115件について、各所有者における取り扱いの実態と課題についてアンケート調査を実施した。

- (1) 調査時期：平成21年12月
- (2) 調査票の回収状況：896件
- (3) アンケート項目：別添アンケート票
- (4) アンケートの集計結果：別紙

2. 各地域の近代化産業遺産の観光活用モデルルートを設定

本調査に際しては、モデル地域16地域（各経済産業局ブロック2地域）を設定して、近代化産業遺産の観光活用のモデルルートを設置した。その成果を「近代化産業遺産活用セミナー」で紹介して普及啓発した。

モデルルートは、別冊の「近代化産業遺産観光活用ガイド」に掲載。

3. 「近代化産業遺産観光活用ガイド」の作成

本調査の主要事業である近代化産業遺産の活用マニュアル「近代化産業遺産活用ガイド」を、下記とおり作成した。

- (1) 作成部数：1000部
- (2) 「近代化産業遺産活用ガイド」は別冊、別添のCDRに収録
- (3) 掲載内容：各近代化産業遺産所有者及び地元自治体関係者等における利用を念頭において、近代化産業遺産を「商業的観光資源」として活用する際の留意点及び具体方策等を取り纏めた。

4. 近代化産業遺産活用検証会議

「近代化産業遺産観光活用ガイド」の基礎内容である「近代化産業遺産活用の勧め」及び各地域のモデルコース設定について、有識者から意見を聞く検証会議を実施した。実施内容は下記のとおりである。

(1) 開催日時：平成22年2月24日（水）15時00分～17時00分

(2) 開催場所：財団法人日本立地センター会議室

(3) 参加有識者：

丁野 朗 氏 社団法人日本観光協会常務理事

高橋 和憲 氏 日本商工会議所理事

戎谷 侑男 氏 株式会社シーブーツアーズ 代表取締役社長

原 尚彦 氏 岡谷市役所 企画政策部企画課

(4) 会議議事録

別添参照

5. 近代化産業遺産活用セミナーの実施

本セミナーでは、本事業で作成した「近代化産業遺産観光活用ガイド」の基礎内容「近代化産業遺産活用の勧め」を中心に、遺産の観光活用策を提示した。同時に有識者の講演及び遺産活用している地域事例（2事例）についても発表した。

セミナーの開催要項は以下のとおりである。

(1) 開催形式；主催 経済産業省・財団法人日本立地センター

(2) 参加対象者：該当遺産の所有者（企業・個人・その他）

都道府県・市町村の担当課、各地の商工会議所・商工会、遺産の保存・活用に関心のある関連企業、NPO、協議会団体及び自治体関係者等

(3) 開催内容

【北海道開催】

① 開催の日時：平成22年3月2日（火）13時00分～16時00分

② 開催場所：北海道経済産業局内会議室

③ 基調講演 演題 「近代化産業遺産の活用が地域を活かす」

講師 須田 寛 氏 東海旅行鉄道株式会社（JR 東海）相談役

④ 近代化産業遺産を活かした街おこしについて 財団法人日本立地センター

⑤ 事例研究1) 演題 「炭坑の記憶を守る」

講師 吉岡 宏高 氏

札幌国際大学 観光学部観光経済学科 准教授

事例研究2) 演題 「産業遺産活用の知恵」

講師 戎谷 侑男 氏

株式会社シーブーツアーズ 代表取締役社長

- ⑥ 案内チラシ：別添
- ⑦ 参加者 48名（遺産所有者11名 自治体4 その他33名）

【東北開催】

- ① 開催の日時：平成22年3月3日（水）13時30分～16時30分
- ② 開催場所：ハーネル仙台 松島B
- ③ 基調講演 演題 「近代化産業遺産の活用が地域を活かす」
講師 清水 慎一氏 株式会社ジェイティービー常務取締役
- ④ 近代化産業遺産を活かした街おこしについて 財団法人日本立地センター
- ⑤ 事例研究1) 演題 「産業遺産が現代に生きる」)
講師 亀沢 修氏
小坂町役場 産業課 観光商工班 課長補佐
- 事例研究2) 演題 「産業遺産を活かした街づくり」
講師 宮森 泰弘氏 会津若松商工会議所会頭
- ⑥ 案内チラシ：別添
- ⑦ 参加者 71名（遺産所有者21名 自治体11名 その他39名）

【関東開催】

- ① 開催の日時：平成22年3月11日（木）13時30分～16時30分
- ② 開催場所：関東経済局内会議室（共用会議室5-1）
- ③ 基調講演 演題 「産業遺産を活用した観光まちづくり」
講師 羽田 耕治氏 横浜商科大学商学部 教授
- ④ 近代化産業遺産を活かした街おこしについて 財団法人日本立地センター
- ⑤ 事例研究1) 演題 「近代化産業遺産を活用したウォーキング事業について」
講師 原 尚彦氏
岡谷市役所 企画政策部企画課 主査
- 事例研究2) 演題 「産業遺産活用の知恵」
講師 戎谷 侑男氏
株式会社シーブーツアーズ 代表取締役社長
- ⑥ 案内チラシ：別添
- ⑦ 参加者 70名（遺産所有者22名 自治体15名 その他33名）

【中部開催】

- ① 開催日時：平成22年3月10日（水）13時30分～16時30分
- ② 開催場所：愛知県産業労働センター ウィンクあいち
- ③ 基調講演 演題 「近代化産業遺産の活用が地域を活かす」
講師 須田 寛氏 東海旅客鉄道株式会社（JR東海）相談役

- ④ 近代化産業遺産を活かした街おこしについて 財団法人日本立地センター
- ⑤ 事例研究1) 演題 「東海地域のものづくり原点を探る」
講師 赤崎 まき子 氏 株式会社エイ・ワークス 代表取締役
- 事例研究2) 演題 「現代のものづくりの発祥」
講師 長尾 治明 氏 富山国際大学 現代社会学部教授
- ⑥ 案内チラシ：別添
- ⑦ 参加者 30名 (遺産所有者11名 自治体3名 その他16名)

【近畿開催】

- ① 開催日時：平成22年3月16日(火) 13時30分～16時30分
- ② 開催場所：経営支援プラザ UEMDA
- ③ 基調講演 演題 「地域活性化の「種」としての近代化産業遺産活用」
講師 丁野 朗 氏 社団法人 日本観光協会 常務理事
- ④ 近代化産業遺産を活かした街おこしについて 財団法人日本立地センター
- ⑤ 事例研究1) 演題 「産業遺産を活かした大阪ブランドの発信」
講師 堀井 良殷 氏 財団法人 大阪21世紀協会 理事長
- 事例研究2) 演題 「銀の馬車道を活用したまちづくり」
講師 宇高 雄志 氏 兵庫県立大学 環境人間学部 准教授
- ⑥ 案内チラシ：別添
- ⑦ 参加者 44名 (遺産所有者13名 自治体4名 その他27名)

【四国開催】

- ① 開催日時：平成22年3月17日(水) 13時30分～16時30分
- ② 開催場所：四国経済産業局内会議室
- ③ 基調講演 演題 「地域活性化の「種」としての近代化産業遺産活用」
講師 丁野 朗 氏 社団法人 日本観光協会 常務理事
- ④ 近代化産業遺産を活かした街おこしについて 財団法人日本立地センター
- ⑤ 事例研究1) 演題 「産業遺産を活用した都市再生」
講師 森賀 盾雄 氏 愛媛大学農部 客員教授
- 事例研究2) 演題 「産業遺産を活かしたエコツーリズム」
講師 立花 律子 氏 NPO 法人 DREAM ISLAND 理事長
- ⑥ 案内チラシ：別添
- ⑦ 参加者 19名 (遺産所有者6名 自治体6名 その他21名)

【中国地域開催】

- ① 開催日時：平成22年3月24日(水) 14時00分～17時00分
- ② 開催場所：中国経済産業局内会議室

- ③ 基調講演 演題 「地域活性化の「種」としての近代化産業遺産活用」
講師 丁野 朗 氏 社団法人 日本観光協会 常務理事
- ④ 近代化産業遺産を活かした街おこしについて 財団法人日本立地センター
- ⑤ 事例研究 1) 演題 「旧呉海軍工廠関連機関遺産の観光活用について」
講師 津田 文夫 氏 呉市海事歴史科学館学芸課 主幹
- 事例研究 2) 演題 「近代化産業遺産を活かした CSR ツーリズム」
講師 谷山 豊三郎 氏 宇部市経済部商業観光課 副主幹
- ⑥ 案内チラシ：別添
- ⑦ 参加者 37名 (遺産所有者10名 自治体6名 その他21名)

【九州地域開催】

- ① 開催日時：平成22年 3月25日(木) 13時30分～16時30分
- ② 開催場所：都久志会館
- ③ 基調講演 演題 「地域活性化の「種」としての近代化産業遺産活用」
講師 丁野 朗 氏 社団法人 日本観光協会 常務理事
- ④ 近代化産業遺産を活かした街おこしについて 財団法人日本立地センター
- ⑤ 事例研究 1) 演題 「江戸から明治のものづくりの原点」
講師 田村 省三 氏 尚古集成館 館長
- 事例研究 2) 演題 「軍艦島を中心とした世界遺産の道」
講師 後藤 恵之輔 氏 長崎大学名誉教授
- ⑥ 案内チラシ：別添
- ⑦ 参加者 43名 (遺産所有者19名 自治体2名 その他22名)

以上

近代化産業遺産活用のアンケート調査票

経済産業省経済産業政策局地域経済産業グループ産業施設課

近代化産業遺産名						
近代化産業遺産の所在地	(〒)					
交通アクセス 最寄りの鉄道駅、高速IC、バス停からの距離、およその時間をご記入ください。その際の交通手段もご記入ください。	最寄りの鉄道駅名	約 km 約 分 (交通手段)	最寄りインターチェンジ名	約 km 約 分 (交通手段)	最寄りのバス停名	約 km 約 分 (交通手段)
産業遺産の所有者(法人)名	所有者名					
	連絡担当者氏名		所属部署		TEL	
					E-mail	
産業遺産管理者名 (所有者と管理者が異なる場合にご記入下さい)	管理者名					
	連絡担当者氏名		所属部署		TEL	
					E-mail	
産業遺産活用受託者名(施設名) (所有者・管理者等から受託して活用している場合は受託者名等をご記入下さい)	受託者名					
	担当者氏名		所属部署		TEL	
					E-mail	
近代化産業遺産の歴史的背景 (簡潔に100字程度におまとめ下さい。なお、既存資料の添付でも結構です)						
近代化産業遺産の活用状況						
1. 現在、活用している 2. 活用に向けての構想がある 3. 活用したいけれども具体的な構想がない 4. 今は活用するかどうか明確な考えはない 5. 今後とも活用は全く考えていない 問: の2、(2)にお進みください 6. その他()						
活用の方策について						
1. 上記 の1. 現在活用している 2. 活用を構想しているとご回答頂きました方にお伺いいたします。						
(1) どのような活用(構想)をしていますか (複数回答可)						
観光・商業的活用 ↳ SQ1: どのような活用されていますか。(例: 物販を行う観光・商業施設、展示施設など) () SQ2: 具体的に観光等周遊ルート等に組み込まれ活用されていますか 1) 組み込まれている 2) 組み込まれていない 3) その他() ↳ 具体的な周遊ルート等の名称() パンフレット等の既存資料がありましたらご送付ください						
博物館・展示施設などに活用 技術・技能等の研修、インキュベーション施設として活用 子供達の体験学習施設として活用 顧客等を対象とする研修・プレゼンテーション施設等として活用 地域住民等を対象とした研修施設などに活用 施設をリース(時間貸し)して、地域の茶会、コミュニケーションの場として活用している その他()						

(2)他の団体との協力関係について

独自で活用している

外部機関に委託をしている その機関名()

他の団体と協力して活用している

→SQ:協力団体は 1)自治体 2)観光協会や商工会議所等の経済団体 3)NPO等の民間組織
4)その他()

その他()

(3)施設の使用料、入館料等について

料金は取らない(無料)

料金は取っている(有料)

料金は場合によって取る時がある

その他()

→SQ:料金はおいくらですか

(a.500円未満 b.500円～1000円未満 c.1000円～1500円未満 d.1500円～2000円未満 e.2000円以上)

(4)活用(構想)の課題について (複数回答可)

産業遺産のPRが課題である

産業遺産単独では観光・商業的な効果がない

運営の費用(パンフレット印刷費、人件費等)がかかりすぎる

施設管理費が高む

活用に係わる施設の歴史等を語るガイド等の人材が不足

施設の老朽化による安全性や防火対策等の安全確保の改修費などが課題

産業遺産までの交通手段等のアクセスが不便である

国、地方公共団体による施設活用の制度上の制約 具体的な制度の内容()

活用にかかわる周辺住民の理解が得られない

その他()

(5)周辺の観光施設や名所・旧跡等の存在(車で約1時間30分圏内程度)

観光施設や名所・旧跡等がある

→ 主な施設の名称:()

地場製品の販売施設(道の駅等)や集客効率の高い飲食施設がある

→ 主な施設の名称:()

観光施設や旧所・名跡等観光施設はない

よくわからない

その他()

2.上記の3.活用していないとご回答いただきました方にお伺いいたします

(1)活用をしていないのはなぜですか (複数回答可)

外部の人(観光客等)たちが入ると生産(営業)活動に支障がでる

施設の安全性や防火対策等で整備する資金的余裕がない

施設を観光等に活用する場合の人材や運転資金がない

活用する方策がわからない

将来的には、産業遺産をスクラップアンドビルドで新たな施設にしたい

その他()

(2)今後の活用について

今後、活用について検討する
条件が整えば検討の余地がある
(主な条件は:)
活用する意志はない

▶上記(2)で、とご回答された方にお伺いします

(3)考えられる活用方法について (複数回答可)

観光・商業的活用

↳ 具体的な内容があればご記入下さい ()

博物館・展示施設などに活用

技術・技能等の研修、インキュベーション施設として活用

子供達の体験学習施設として活用

顧客等を対象とする研修・プレゼンテーション施設等として活用

地域住民等を対象とした研修施設などに活用

施設をリース(時間貸し)して、地域の茶会、コミュニケーションの場として活用している

その他()

産業遺産の保全・活用について

ご意見等がありましたらご自由にお書き下さい

【お願い】

現在、近代化産業遺産を活用されている方にお願ひですが、活用内容が把握できるようなパンフレットがありましたらお送りいただければ幸いです。(返信用封筒に同封して下さい)

近代化産業遺産活用アンケート調査結果

1. 近代化産業遺産の活用状況

本アンケート調査は、平成19年度及び20年度に経済産業大臣が認定した1,115件の近代化産業遺産所有者等を対象として、平成21年12月に近代化産業遺産の活用状況をアンケート方式で調査した。

そのアンケート調査結果によれば、近代化産業遺産（1,115件）のうち555遺産（49.8%）が「活用している」との結果を得た。

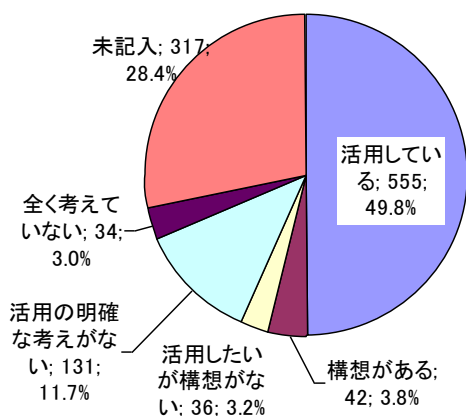
一方、「活用したいが構想がない」、「活用の明確な考えがない」、「全く考えていない」、「未記入」とする回答も、46.3%を占めており、これらの活用に向けて手法などの情報の提供が求められている。なお、参考までに有効回答896遺産の活用状況を右の図にまとめた。

また、近代化産業遺産の活用方法としては、「博物館展示施設」「観光・商業的施設」に活用しているケースが群を抜けて多い。

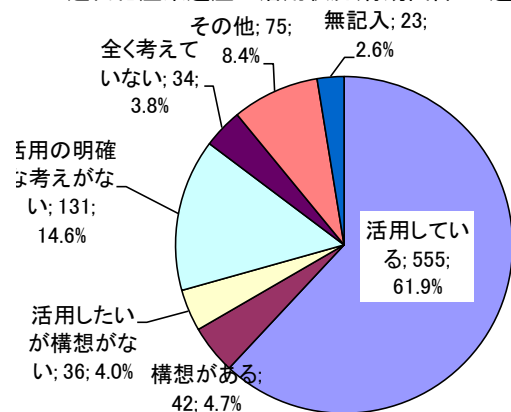
近代化産業遺産の活用状況

項目	件数	割合
回答数	896	80.4%
回答の内容		
活用している	555	61.9%
構想がある	42	4.7%
活用したいが構想がない	36	4.0%
活用の明確な考えがない	131	14.6%
全く考えていない	34	3.8%
その他	75	8.4%
無記入	23	2.6%
未回答	219	36.9%
合計	1115	100.0%

近代化産業遺産のアンケート結果(1115遺産)



近代化産業遺産の活用状況(有効回答896遺産)



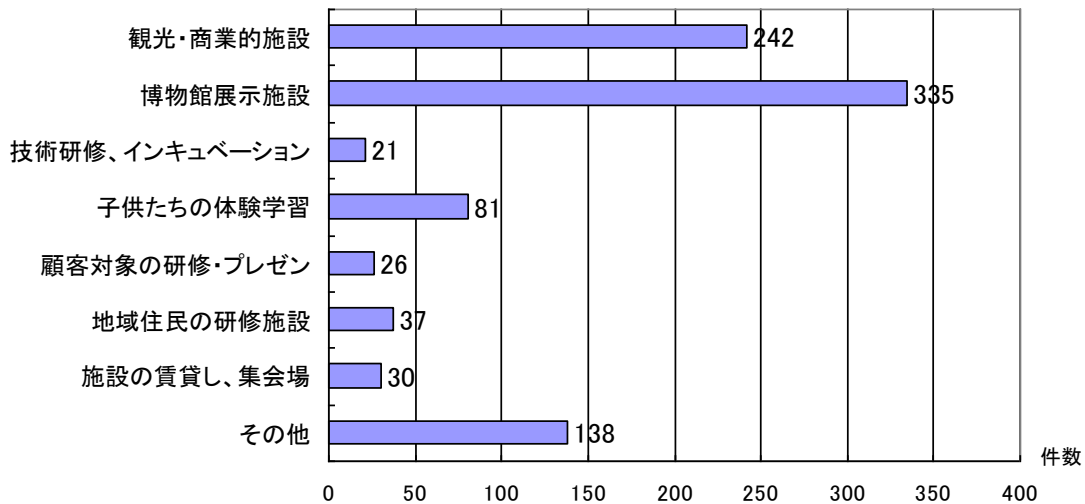
2. 近代化産業遺産活用の種類

(1) 活用の種類

近代化産業遺産(有効回答 896)の活用類型は、「博物館展示施設」に活用しているとする遺産が最も多く、335件(54.3%)、次いで「観光・商業的施設」が242件(39.2%)で、この2つの活用がほとんどである。「子供たちの体験学習」活用は、81件(13.1%)であった。

項目	件数	割合
観光・商業的施設	242	39.2%
博物館展示施設	335	54.3%
技術研修、インキュベーション	21	3.4%
子供たちの体験学習	81	13.1%
顧客対象の研修・プレゼン	26	4.2%
地域住民の研修施設	37	6.0%
施設の賃貸し、集会場	30	4.9%
その他	138	22.4%
(複数回答含む)		

産業遺産の活用類型(回答数617遺産)

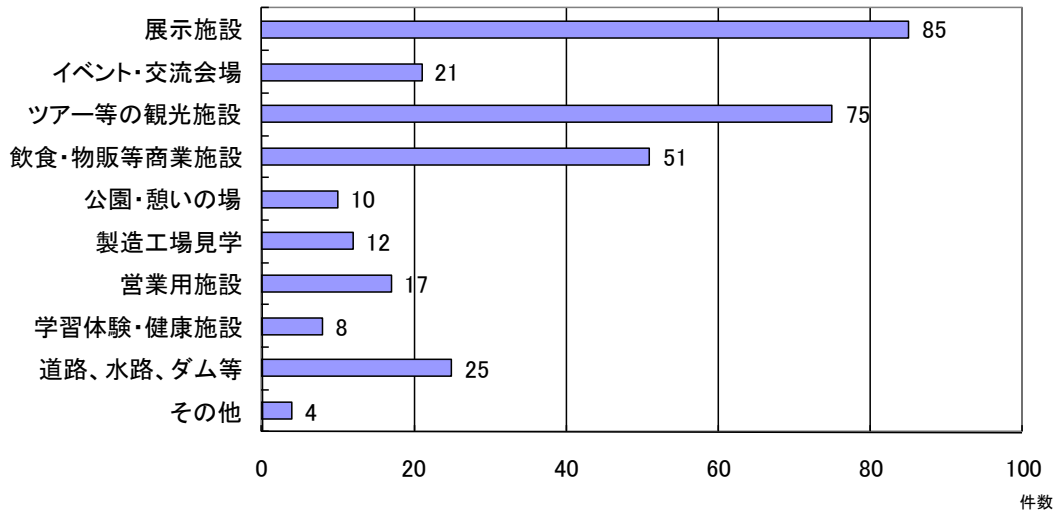


(2) 観光・商業施設の詳細活用類型

観光・商業施設を活用していると回答した242遺産の具体的な活用内容については、「展示施設」が最も多く85遺産(35.1%)であった。次いで、「ツアー等の観光施設」に活用するが、75遺産(31.0%)となっている。また、「飲食・物販等商業施設」が51遺産(21.1%)と遺産の建造物を活用したレストランや店舗などが見られる。

項目	件数	割合
展示施設	85	35.1%
イベント・交流会場	21	8.7%
ツアー等の観光施設	75	31.0%
飲食・物販等商業施設	51	21.1%
公園・憩いの場	10	4.1%
製造工場見学	12	5.0%
営業用施設	17	7.0%
学習体験・健康施設	8	3.3%
道路、水路、ダム等	25	10.3%
その他	4	1.7%
合計	242	100.0%
(複数回答含む)		

観光・商業施設の詳細活用類型(回答242遺産)



(3) 観光周遊ルート活用

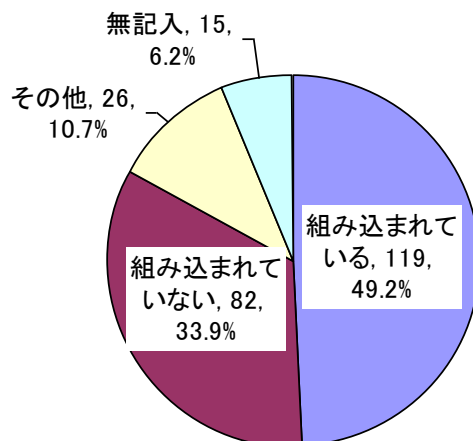
観光・商業施設を活用していると回答した242遺産の内、観光周遊ルートに組み込まれているかについては、「組み込まれている」が119遺産(49.2%)と半数近くが既存の観光ルートとして認知されている。

しかし、まだルート設定に組み込まれていない遺産は82件あり、これらの遺産の周遊ルート組み込みの検討を進める必要がある。

観光周遊ルートに活用(回答242遺産)

項目	件数	割合
組み込まれている	119	49.2%
組み込まれていない	82	33.9%
その他	26	10.7%
無記入	15	6.2%
合計	242	100.0%

観光周遊ルートの組み込み(回答217遺産)



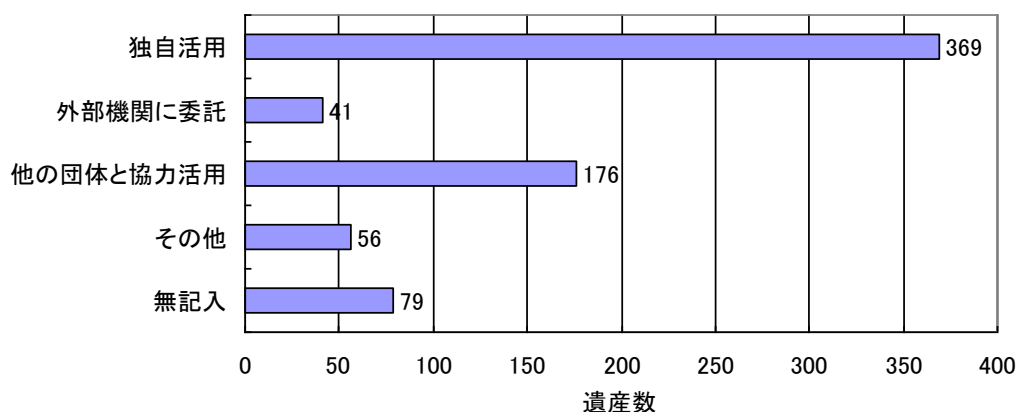
3. 活用単位の類型

(1) 活用単位の類型（予定を含む）

活用していると回答した企業から、その活用単位の類型について問うたところ、「独自活用」をしていると回答した遺産が369件（59.8%）、「他の団体と協力活用」して活用しているとする遺産が、176件（28.5%）となっている。

項目	件数	割合
独自活用	369	59.8%
外部機関に委託	41	6.6%
他の団体と協力活用	176	28.5%
その他	56	9.1%
無記入	79	12.8%
(複数回答含む)		

活用単位の類型について〈予定含む〉(回答数617遺産)

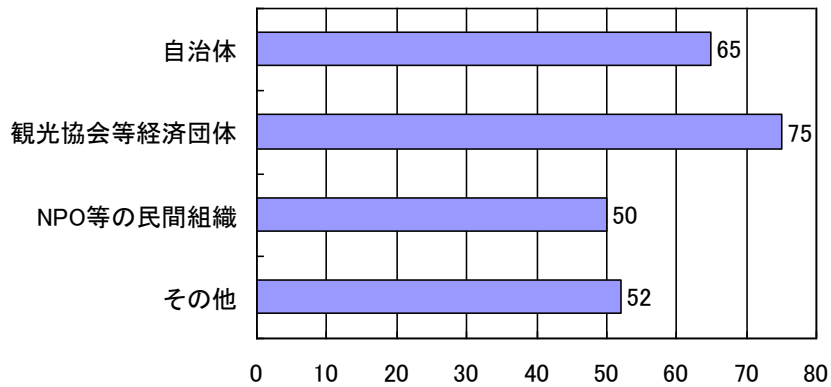


(2) 他の団体と協力関係の団体

遺産活用の協力関係の団体としては、「観光協会等経済団体」との協力関係が最も多く、75件（42.6%）である。次いで「自治体」が65件（36.9%）となっている。「NPO等の民間組織」との協力関係も50遺産（28.4%）と比較的高い割合を示している。

項目	件数	割合
自治体	65	36.9%
観光協会等経済団体	75	42.6%
NPO等の民間組織	50	28.4%
その他	52	29.5%
(複数回答含む)		

他の団体と協力関係の団体(回答数176遺産)

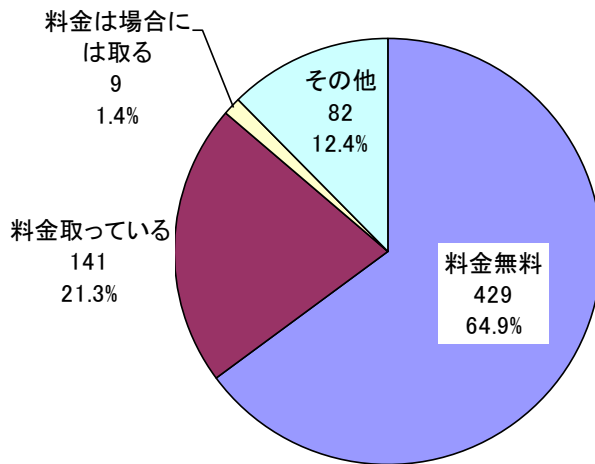


(3) 施設使用料について

遺産施設の使用料金、入館料を取っているのかについては、「料金無料」とする施設が429遺産(77.3%)と最も多い。「料金を取っている」、「料金を場合には取る」とする遺産は、合わせて150件(27.0%)であり、全体的に料金を取らない遺産が多いが、今後、遺産保存等のメンテナンス、ガイド雇用等の維持運営の観点から資金源として料金を取る仕組みも検討する必要があると思われる。

施設使用料金、入館料(活用数555遺産)		
項目	件数	割合
料金無料	429	77.3%
料金取っている	141	25.4%
料金は場合には取る	9	1.6%
その他	82	14.8%
(複数回答含む)		

施設使用料金、入館料の徴収について

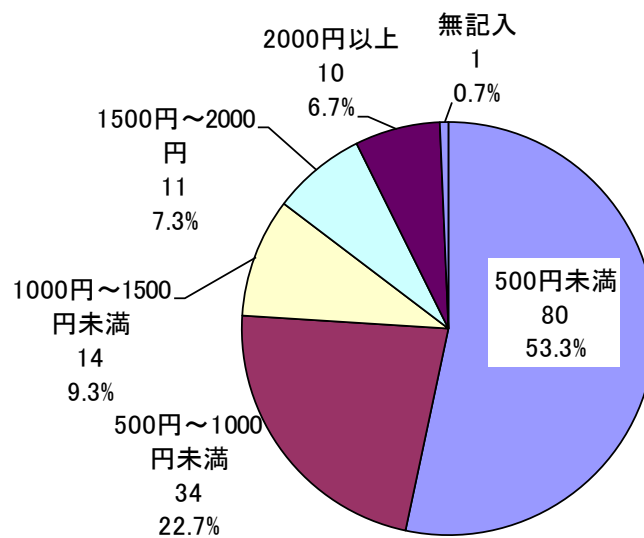


(4) 施設の入館料金等

料金を取っている150遺産の料金構成をみると、500円未満が最も多く80遺産(53.3%)であった。次いで500円～1000円未満とする遺産が34件(22.7%)であるが、2000円以上とする遺産も10件(6.7%)あった。

項目	件数	割合
500円未満	80	53.3%
500円～1000円未満	34	22.7%
1000円～1500円未満	14	9.3%
1500円～2000円	11	7.3%
2000円以上	10	6.7%
無記入	1	0.7%
合計	150	100.0%

施設利用料金分布(回答所有者)

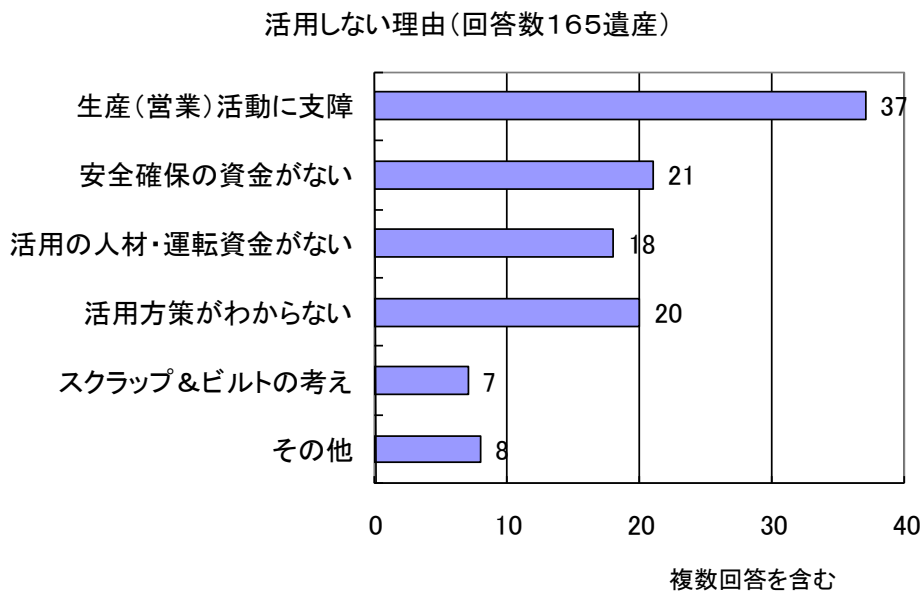


4. 活用しない理由

「活用しない」とする165遺産の活用しない理由を伺ったところ、「生産（営業）活動に支障」があるとする遺産が37件（36.3%）ある。また、「安全確保の資金がない」とする遺産も21件（20.6%）あり、老朽化した建造物や周辺環境の整備が必要とする遺産の資金が問題となっている。この面では、当該自治体や国の補助金などの活用も一考する必要がある。

また、「活用方策がわからない」とする遺産は、20件（19.6%）あり、今後、これらの遺産所有者に活用を働きかける必要があると思われる。

活用しない理由(回答数165遺産)		
項目	件数	割合
生産(営業)活動に支障	37	22.4%
安全確保の資金がない	21	12.7%
活用の人材・運転資金がない	18	10.9%
活用方策がわからない	20	12.1%
スクラップ&ビルトの考え	7	4.2%
その他	8	4.8%
(複数回答含む)		

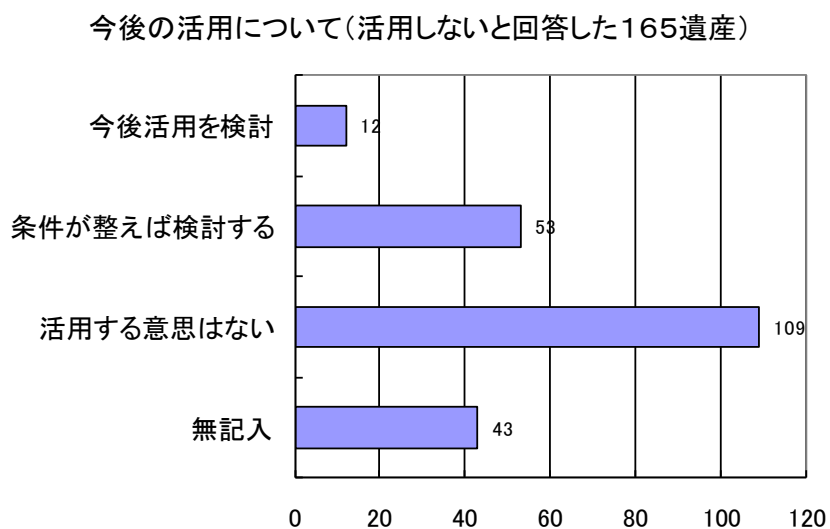


注) 無記入の54遺産は、図表に掲載していません。

5. 今後の活用性の方向

活用をしていない遺産のうち、今後の活用方向を問うたところ、「活用する意思がない」とする遺産が109件（66.1%）と半数を超えている。しかし、「条件を整えば検討する」も53件（32.1%）と1/3を超す遺産が条件付きで、活用検討するとしている。また、「今後活用を検討」すると回答した遺産も12件（7.3%）あり、条件付き検討と合わせると65件（39.4%）となっている。

項目	件数	割合
今後活用を検討	12	7.3%
条件を整えば検討する	53	32.1%
活用する意思はない	109	66.1%
無記入	43	26.1%
合計	165	100.0%



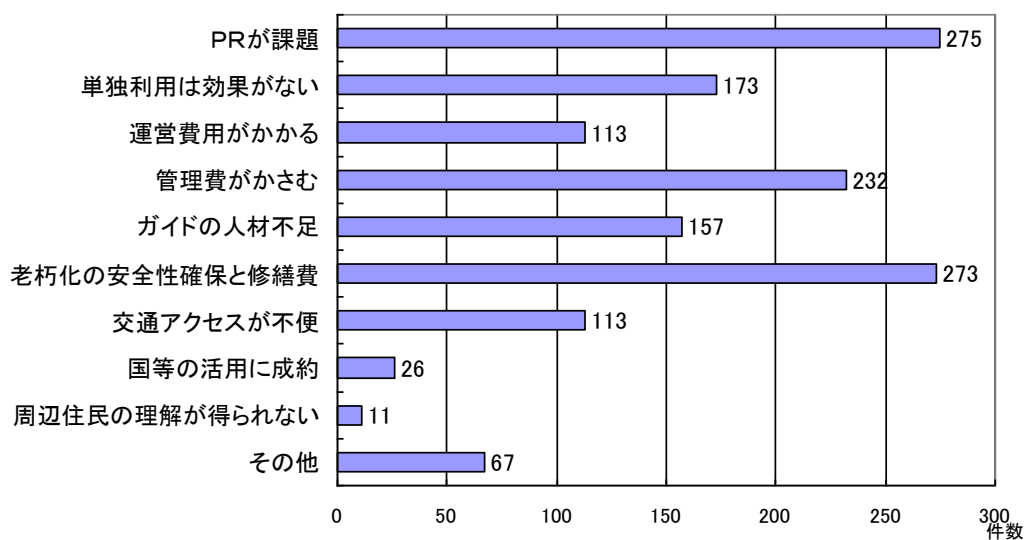
6. 活用の課題

活用の課題としては、「PRが課題」とする遺産が275件（19.1%）と最も多い。次いで、「老朽化の安全性確保と修繕費」が273件（19.0%）、「管理費がかさむ」232件（16.1%）の順で、維持管理費の負担が大きいことが伺える。

活用の課題について(回答総数)

項目	件数	割合
PRが課題	275	19.1%
単独利用は効果がない	173	12.0%
運営費用がかかる	113	7.8%
管理費がかさむ	232	16.1%
ガイドの人材不足	157	10.9%
老朽化の安全性確保と修繕費	273	19.0%
交通アクセスが不便	113	7.8%
国等の活用に成約	26	1.8%
周辺住民の理解が得られない	11	0.8%
その他	67	4.7%
合計	1440	100.0%

遺産活用の課題について(回答総数)



近代化産業遺産利活用有識者検証会議 議 事 要 旨

日 時：平成22年2月24日（水）15：00～17：00

会 場：（財）日本立地センター会議室

議 題：

- （1）近代化産業遺産の観光コース設計について
- （2）近代化産業遺産を巡る観光コースのモデル地域の試行実験の具体的方法
- （3）近代化産業遺産の観光コース設計の課題
- （4）近代化産業遺産の活用マニュアル（手引き）について
- （5）その他

出席者（敬称略）：

戎谷 侑男（（株）シーピーツアーズ代表取締役社長）

高橋 和憲（日本商工会議所理事）

丁野 朗（（社）日本観光協会常務理事）

原 尚彦（岡谷市役所企画政策部政策推進担当）

<事務局>

徳増 秀博（（財）日本立地センター常務理事）

米山 圭子（（財）日本立地センター産業立地部主任研究員）

延原 紀子（（財）日本立地センター産業立地部客員研究員）

上村 基（（社）日本観光協会総合研究所客員研究員）

議 事：

（資料説明）

- ・近代化産業遺産活用マニュアル（素案）（説明：徳増）
- ・モデル地域のとりまとめイメージ案（説明：上村）

意見交換

（丁野）観光活用については、別途、限定したマニュアルが必要だと思う。

（戎谷）マニュアルはもっと簡単にした方が読みやすいと思う。

遺産、産業観光という言葉は世の中に受け入れられるのか。真面目に捉えられてしまうので、ブランド化が必要ではないか。いずれにしても、親しみの持てそうな副題が要ると思う。

(原) ポイントをもう少し絞って整理した方が良いと思う。近代化産業遺産という言葉は一般的にはなじみにくい言葉だと思う。

(高橋) 観光に絞り込んでマニュアルを作成してみたらどうかと思う。活用のメリットをもう少し明確にした方が良いと思う。料金設定の問題や既存観光地との連携も意識しながら構成した方が良い。

(丁野) トップ企業は自ら投資しても観光をやっている。YKK ツアーズやノリタケ、晚餐館、軍艦島クルーズなどの例もある。

(高橋) 自治体が活用企業のコンソーシアムを支援するような仕組が望ましいと思う。

(戎谷) 官民で投資しないとできない部分も多い。関係者全員で負担して進めないと無理があると思う。特に長期的に経営していくには資金が必要である。

(原) 文化財の活用については補助金がある。産業遺産に限った補助金はない。税の軽減や免税などの措置も必要だと思う。

(丁野) ウォーキング事業で活用している事例もある。ビジネスモデルにまで高めていく必要があると思う。

JR東日本の駅からハイキングは年間 500 本、26 万人の会員がいる。旅慣れた人に向けた「旅市」という商品がヒットしている。

(高橋) 私鉄でもポイントラリーなどをやっている。いずれにしても、地域活性化の戦略が必要だと思う。

(戎谷) 砂川のハイウェイオアシスなどは、菓子を買わせるシステムが成功している。

(高橋) 産業遺産だけで回収することは無理があると思う。土産や体験など、いろんなパッケージでカネを確保すべき。

(丁野) 人が来れば地域にカネが落ちる。違った客が同じ地域に入ってきてはじめて、全体のパイが増える。

(高橋) 地域まるごとで稼ぐという発想が大事だと思う。

(戎谷) お土産、食事、花、温泉が観光のキーワード。見学場所が多くなると無理が出ると思う。1日に3ヶ所ぐらいが適当だと思う。

(高橋) 観光には大義名分がいると思う。

(原) ・ガイドの育成を実施。現在 20 名いる。市役所や企業の OB が多い。

・まちなか案内人は 1 時間 500 ~ 600 円の有料としている。

・レンタサイクルの事業も実施している。

・個人が行っても行けるように、マップや看板も整備している。

(丁野) 公開の有無とガイドの有無を整理したらどうか。

(戎谷) 語り部が重要だと思う。旅行の前にはネットで検索、旅行中はガイドブック、旅行後はネットという情報発信スタイルになっている。

- (高橋) 旅のモデルコースもマニュアルに入れたほうが良いと思う。語り部の実例もあると良い。地方の大学とJTBで、1週間から10日間程度の国内短期留学を実施している。20名~30名程度勉強している。本事業はこのテーマとして最適だと思う。
- (丁野) 高校生に学ばせて語らせるといった取り組みも面白いと思う。
- (原) いずれにしても拠点が要ると思う。国の支援制度一覧を入れたらどうか。総務省や文化庁など。着地型的に作ればよいと思う。
- (丁野) マニュアルはメッセージ性を出した方がよいと思う。
- (戎谷) 曜日によってはつながらないルートもあるかもしれない。
- (丁野) コンベンションとの組み合わせも面白いと思う。

以上